

参考資料

2018年度 業績の概要

2019年5月15日
ソニー銀行株式会社

損益の状況(1):財務会計ベース

<連結・単体>

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示
(億円)

<連結>

- **業務粗利益**
前年度比36億円増加の283億円。
- **経常利益**
同24億円増加の95億円。
- **親会社株主に帰属する当期純利益**
同16億円増加の63億円。

<単体>

- **業務粗利益**
同30億円増加の245億円。
有価証券利息の増加や、住宅ローン残高の積み上がりにもなう貸出金利息の増加などにより増加。
- **経常利益**
同21億円増加の85億円。
業務粗利益が増加したことにより、増益。
- **当期純利益**
同15億円増加の60億円。

	<12ヶ月累計>	2017年度	2018年度	前年度比	
連結	業務粗利益	246	283	+36	+14.9%
	経常利益	71	95	+24	+33.6%
	親会社株主に帰属する当期純利益	47	63	+16	+34.6%

単体	業務粗利益	214	245	+30	+14.4%
	資金運用収支	206	233	+26	+12.9%
	役員取引等収支	△29	△22	+7	-
	その他業務収支	37	34	△2	△7.3%
	営業経費	155	159	+3	+2.5%
	業務純益	59	85	+26	+44.6%
	経常利益	65	86	+21	+32.6%
	当期純利益	44	60	+15	+34.6%

損益の状況(2): 社内管理ベース

< 単体 >

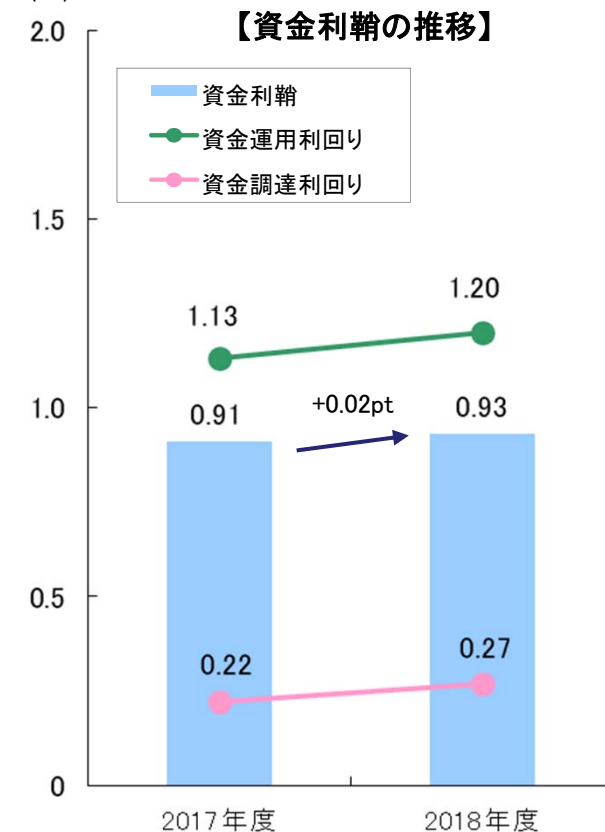
- コアベース業務粗利益は、前年度比33億円増加の237億円。資金収支(有価証券利息や貸出金利息)の拡大などにより増加。
- 資金利鞘については、資金運用利回りの上昇が、資金調達利回りの上昇を上回ったため、前年度比+0.02pt上昇の0.93%。引き続き一定の水準を維持。

(億円)

<12ヶ月累計>	2017年度	2018年度	前年度比	
業務粗利益	213	244	+31	+14.5%
資金収支*1①	230	255	+25	+11.1%
手数料等収支*2②	△25	△17	+7	-
その他収支*3	9	7	△2	△23.6%
コアベース業務粗利益(A) =①+②	204	237	+33	+16.2%
営業経費等③	155	159	+4	+2.9%
コアベース業務純益 =(A)-③	49	78	+28	+58.0%

- 社内管理ベース 損益の実態をより適切に表すよう、財務会計ベースに以下の調整を加えたもの
 - *1 資金収支…資金運用収支+その他業務収支に計上されている実質的な資金運用にかかる損益(為替スワップ収益等)
 - *2 手数料等収支…役員取引等収支+その他業務収支に計上されているお客さまとの外貨売買取引にかかる収益
 - *3 その他収支…その他業務収支より*1と*2の調整分を控除したもの。主な内容は債券関係損益およびデリバティブ関連損益
- コアベース 社内管理ベースのその他収支(主に債券関係損益およびデリバティブ関連損益)を除いたもので、当社の基礎的な収益を表すもの

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示

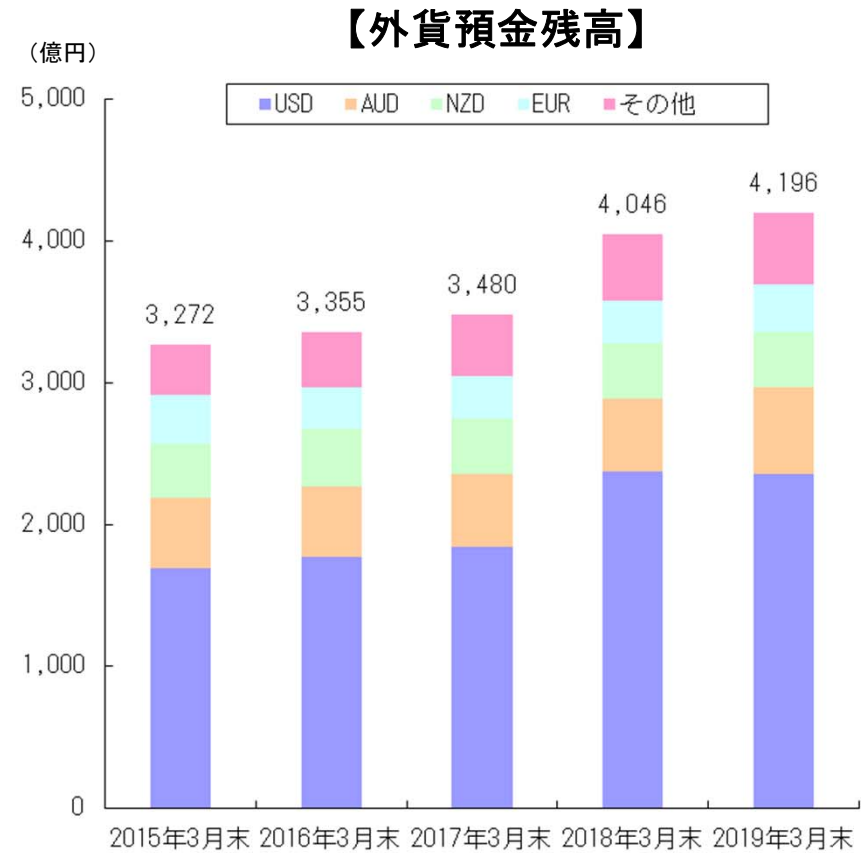
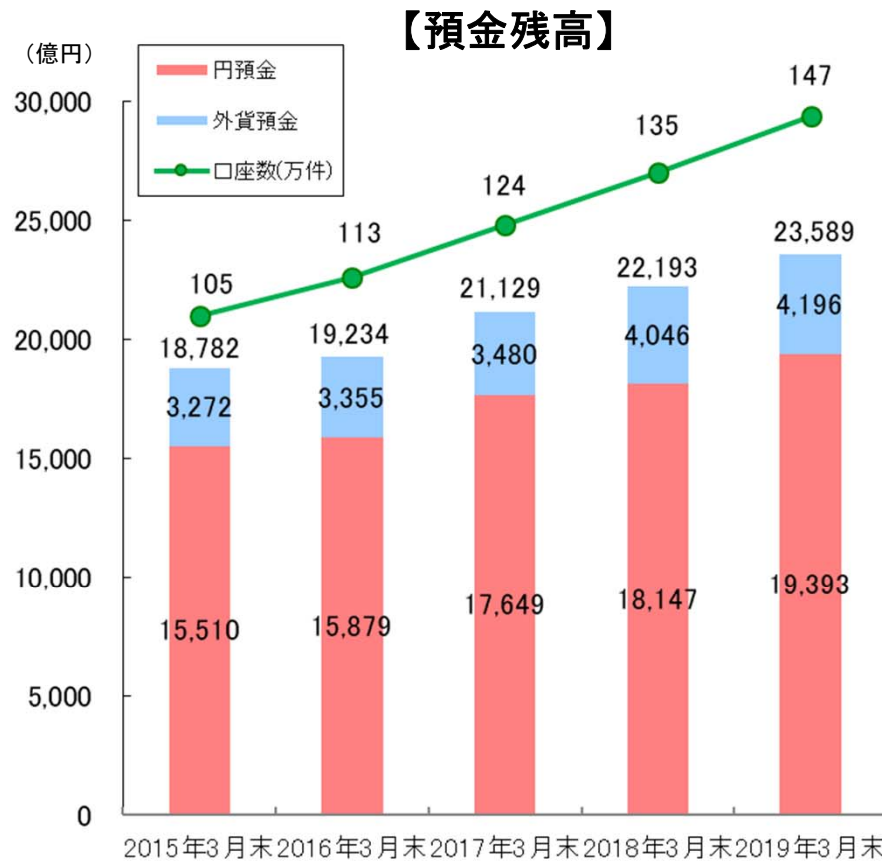


預金の状況

<単体>

- 預金残高は、前年度末比1,396億円増加の2兆3,589億円。
 円預金残高は、主に口座数増加にともなう新規資金などの獲得により、普通預金を中心に増加。
 外貨預金残高は、「セット定期」の取り扱い開始などにより定期預金が増加し、増加。

金額は億円未満切捨てで表示

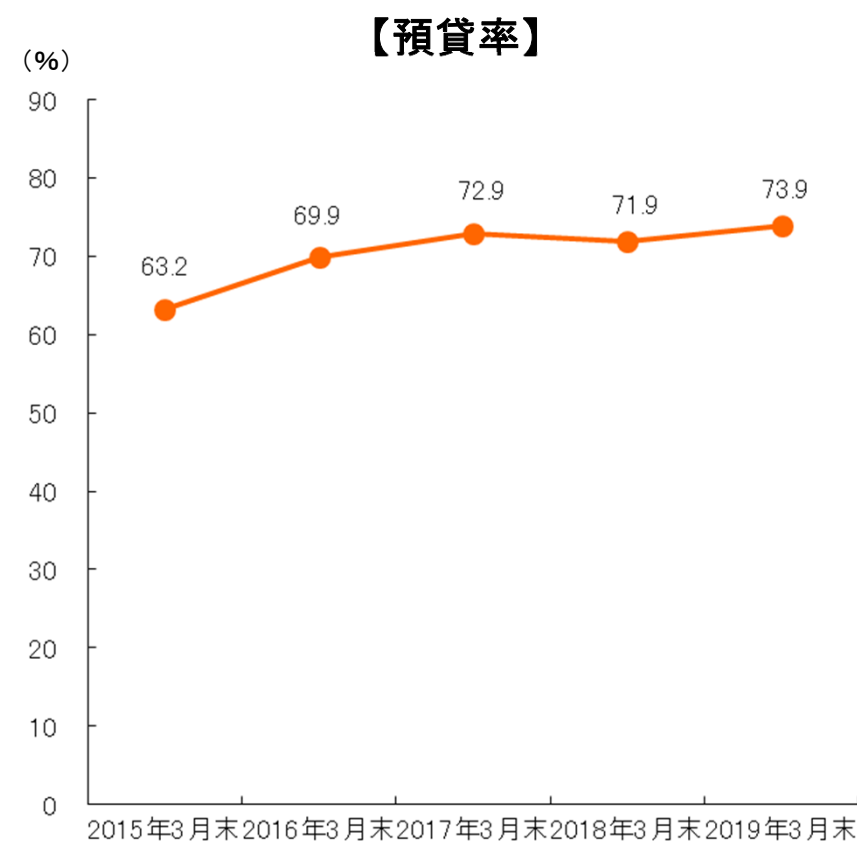
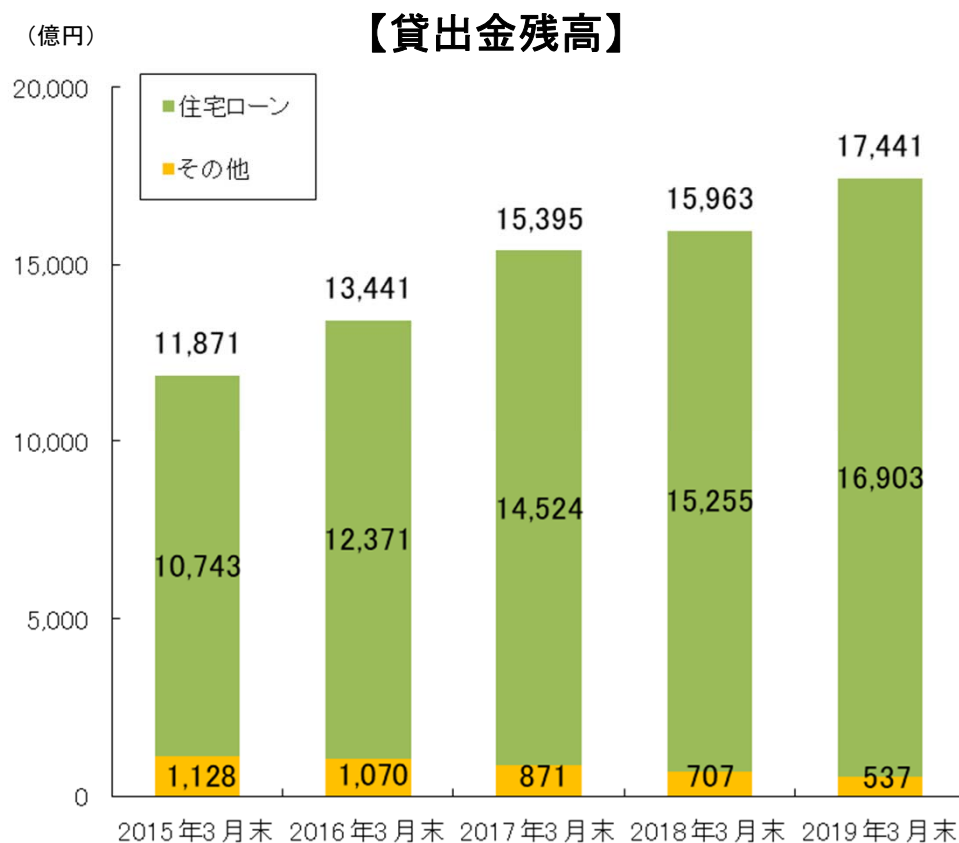


貸出金の状況

<単体>

- 貸出金は住宅ローンの着実な積み上げにより増加し、前年度末比1,477億円増加の1兆7,441億円。
- 預貸率は73.9%。

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示



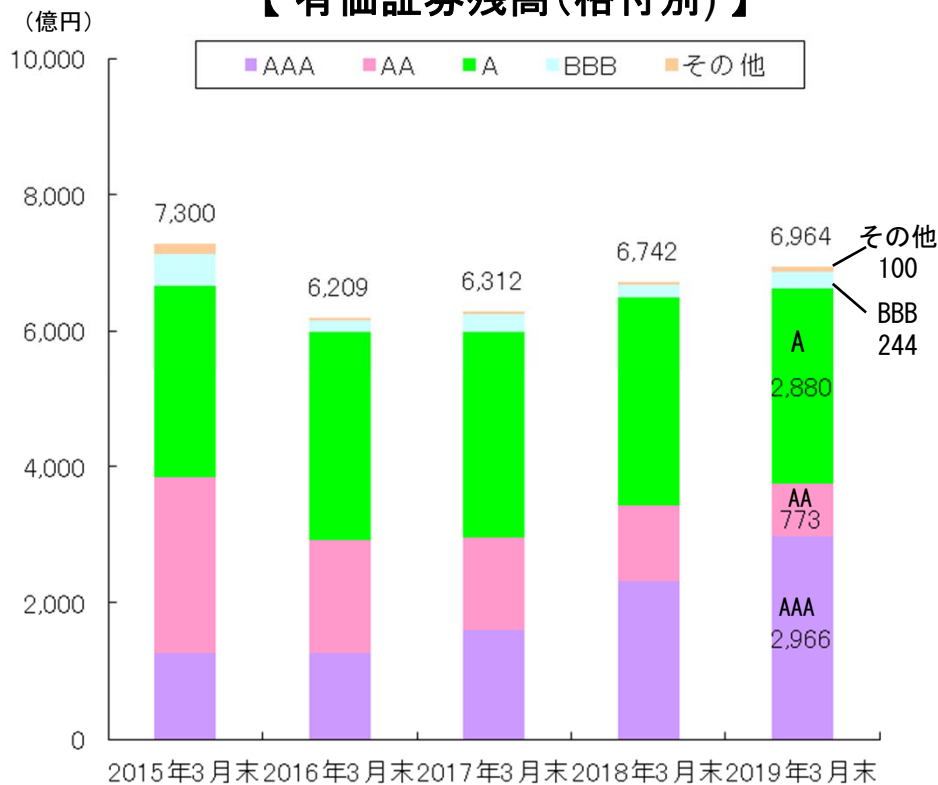
有価証券の状況

<単体>

- 有価証券の残高は、前年度末比221億円増加の6,964億円。
高格付けの債券で安定的に運用。引き続き、AAA～A格の債券が全体の9割強を占める。
- その他有価証券評価差額金(税効果会計適用前)は47億円。

金額は億円未満切捨てで表示

【有価証券残高(格付別)】



【その他有価証券の内訳】

	2018年3月末	2019年3月末
債券	1,980	1,341
国債	968	641
地方債	360	200
社債	651	499
その他	4,793	5,651
外国債券	4,689	5,555
その他の証券	104	96
合計	6,774	6,993
＜その他有価証券評価差額金 (税効果会計適用前)＞	< 77 >	< 47 >

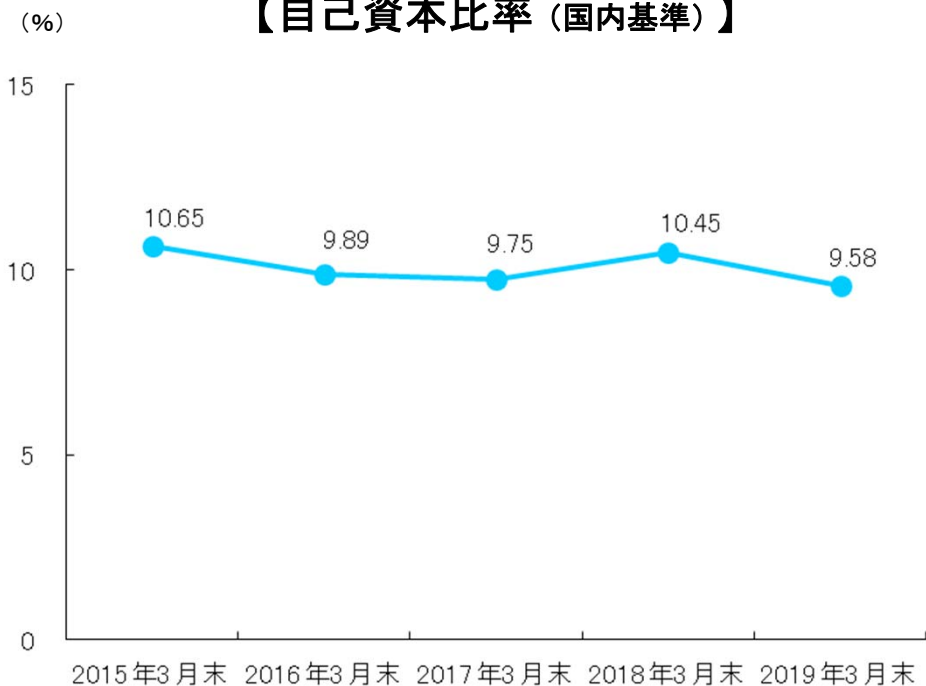
※時価のあるその他有価証券の貸借対照表計上額内訳
貸借対照表の「有価証券」のほか、「買入金銭債権」中の信託受益権を含めて記載

自己資本比率・格付け情報

< 単体 >

● 自己資本比率は9.58%と0.87pt低下したものの引き続き健全な水準を維持。

【自己資本比率（国内基準）】



【格付け（2019年3月末現在）】

スタンダード&プアーズ	
長期カウンターパーティ格付け「A」	アウトルック「ポジティブ」
短期カウンターパーティ格付け「A-1」	
日本格付研究所	
長期発行体格付「AA-」	見通し「安定的」

※平成18年金融庁告示第19号「銀行法第14条の2の規定に基づき、銀行がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準」に基づき算出。

※2017年3月末より、基礎的内部格付手法で算出。

営業経費の内訳・預金経費率の推移

<単体>

- 営業経費は、前年度比微増の159億円。
- 預金経費率は、預金残高の積み上げにより小幅改善。

金額は億円未満切捨て、%は四捨五入で表示

【営業経費の内訳】

(億円)

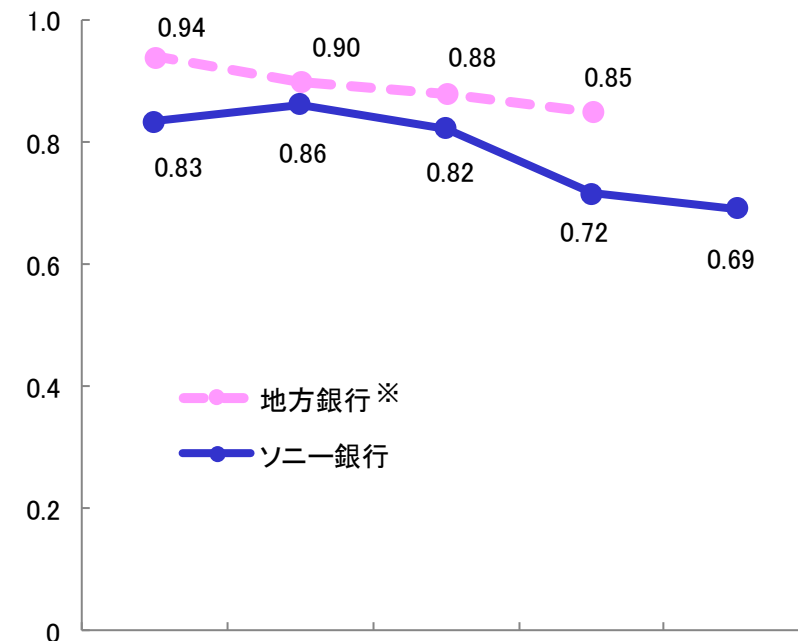
	2017年度	2018年度	前年度比	
営業経費	155	159	+3	+2.5%
システム関連費用	47	47	△0	△0.4%
人件費	45	45	+0	+1.9%
広告宣伝費	9	11	+2	+31.6%
その他	53	54	+0	+0.6%

※システム関連費用は減価償却費、保守管理料など。

※その他は業務委託費、税金・保険料など。

【預金経費率の推移】

(%)



2014年度 2015年度 2016年度 2017年度 2018年度

預金経費率=営業経費÷預金・譲渡性預金・債券平残

※出所: 全国銀行協会「全国銀行財務諸表分析」地方銀行平均

2018年度の主なサービス拡充施策

住宅ローン商品・サービスの充実

- AI(人工知能)を活用した住宅ローン仮審査の自動化を開始(2018年5月)
- より低い固定金利で住宅ローンを借り入れしたい、とのニーズにお応えし、「固定セレクト住宅ローン」の取り扱い開始(2018年10月)
- がん保障の特約など、新たな疾病保障特約付き団体信用生命保険の取り扱い開始(2018年8月、10月)
- 同性パートナーのかたと住宅ローンをご利用いただけるように LGBTへの新たな取り組みを開始(2018年4月)

金融取引をより便利に、身近に

- 残高照会や外貨取引・お振込みがより便利に。セキュリティも万全な「ソニー銀行アプリ」の提供開始(2019年2月)
- 「Sony Bank WALLET アプリ」をバージョンアップ(2018年5月)
- 円定期と外貨定期を同時に申し込むと、円定期で上乗せ金利が受け取れる「セット定期プログラム」を開始(2018年7月)
- Amazon Alexa「ソニー銀行」スキルの提供開始(2018年11月)

